

令和3年第1回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	令和3年2月26日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	令和3年3月11日 午前9時30分			議 長 田 中 政 司	
	散会	令和3年3月11日 午後0時33分			議 長 田 中 政 司	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	山 口 卓 也	出	9番	森 田 明 彦	出
	2番	諸 上 栄 大	出	10番	辻 浩 一	出
	3番	諸 井 義 人	出	11番	山 口 忠 孝	出
	4番	山 口 虎 太 郎	出	12番	山 下 芳 郎	出
	5番	宮 崎 一 徳	出	13番	山 口 政 人	出
	6番	宮 崎 良 平	出	14番	芦 塚 典 子	出
	7番	川 内 聖 二	出	15番	梶 原 睦 也	出
	8番	増 田 朝 子	出	16番	田 中 政 司	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	村上大祐	新幹線・まちづくり課長	小野原博
	副市長	池田英信	市民課長	馬郡裕美
	教育長	杉崎士郎	健康づくり課長	
	行政経営部長	辻明弘	子育て未来課長	
	総合戦略推進部長	池田幸一	文化・スポーツ振興課長	小笠原啓介
	市民福祉部長	陣内清	福祉課長	
	産業振興部長	早瀬宏範	農業政策課長	
	建設部長		観光商工課長	中村はるみ
	教育部長	永江松吾	建設・農林整備課長	
	会計管理者兼 会計課長		環境下水道課長	
	総務・防災課長兼 選挙管理委員会事務局長	太田長寿	教育総務課長	武藤清子
	財政課長	山口貴行	学校教育課長	山浦修
	税務課長		監査委員事務局長	
	企画政策課長		農業委員会事務局長	
	広報・広聴課長		代表監査委員	
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	諸井和広		

令和3年第1回嬉野市議会定例会議事日程

令和3年3月11日（木）

本会議第4日目

午前9時30分 開議

- 日程第1 議案質疑
- 議案第17号 令和3年度嬉野市一般会計予算
 - 議案第18号 令和3年度嬉野市国民健康保険特別会計予算
 - 議案第19号 令和3年度嬉野市後期高齢者医療特別会計予算
 - 議案第20号 令和3年度嬉野市農業集落排水特別会計予算
 - 議案第21号 令和3年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計予算
 - 議案第22号 令和3年度嬉野市浄化槽特別会計予算
 - 議案第23号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地区画整理事業費特別会計予算
 - 議案第24号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地区画整理事業費特別会計予算
 - 議案第25号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計予算
 - 議案第26号 土地の取得について
 - 議案第27号 財産の無償貸付について
 - 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について
 - 議案第28号 嬉野市印鑑条例の一部を改正する条例について
 - 議案第29号 嬉野市教育委員会委員の任命について

午前9時30分 開議

○議長（田中政司君）

皆さんおはようございます。本日、3月11日は、あの未曾有の大災害となりました東日本大震災からちょうど10年目の日であります。死者、行方不明者、約2万2,000人、今現在もお避難を余儀なくされている方が4万1,000人にも及んでいるところであります。震災で亡くなられた方々へ心から御冥福をお祈り申し上げますとともに、一日も早い復興を願うところであります。本日は、震災が発生いたしました午後2時46分に1分間のサイレン吹鳴が行われる予定となっておりますので、そのときに合わせまして黙禱をお願いいたしたいというふうに思います。

それでは、定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1．議案第17号 令和3年度嬉野市一般会計予算について、昨日に引き続き質疑を行います。

それでは、歳出214ページから221ページの第7款、商工費について質疑を行います。

まず、214ページの1項、商工費、2目、商工振興費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

新規で今回新たに地域資源活用対策事業に取り組まれるということですが、まず、この事業内容の説明をお伺いした上で、昨年からキーワードとしてありました地域商社、そういったものの関わりなどがございましたら、そういったものを含めて説明をお願いします。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

まず、地域資源活用対策事業の事業内容につきましてですけれども、地域資源の商品化や商品開発、マーケティング、ブランディングなどの知識を習得するために、観光カリスマや大学教授、実際に全国各地で活躍中の実践者など、日本トップレベルの講師陣を招きまして、徹底的な人材育成に努める予定でございます。

また、費用に関しましては、開催内容や各講師の活動内容によって変わってくるものだと考えております。

また、地域商社との関わりにつきましてですけれども、九州を代表する温泉観光地である嬉野市におきまして、地域商社の役割は観光を軸にした地域資源や特産品を嬉野らしい、嬉野ならではの商品として販売していくことにあると思いますので、コロナ禍で営業を展開していく上では欠かせないものではないかと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

この地域資源活用対策事業で、5のその他の参考となる事項で、組織づくりも今後目指していくというふうに書いてありますけれども、それは地域商社をつくっていくためと考えているのか、地域商社とは別の組織をつくっていくのか、そこをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

組織づくりにつきましては、やはり観光産業を主産業としている嬉野市におきましては、地域の資源を活用していくためにも今後あらゆるところと連携を取りながらやっていかなければいけないと思っておりますので、地域づくりは不可欠なものと考えております。商工会とか金融機関、また、観光協会等と連携しながら取り組んでいきたいと考えているところで、具体的に地域商社と結びつけているわけではございません。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

できるだけ効率的に、同じような組織がたくさんあったら意味がないので、地域商社は販売に特化して、こちらは地域資源の発掘に特化するとか、ちゃんとそういった目的意識を持って事業を展開して行ってほしいと思います。

最初なので、1年目は難しいと思えますけれども、これはずっと継続事業として考えているということで考えていいですか。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

やはり地域一丸となって取り組んでいかないと、今後、コロナ禍の中でアフターコロナを見据えたときにはどうしても必要なことだと思っておりますので、単年度のみということではなく、ずっと引き続き取り組んでいくべきものだと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

私もこの12節、委託料の地域資源活用対策事業の5,000千円の計上に関する質問ですけれども、先ほど山口卓也議員の質問で内容のほうはある程度つかめたんですが、その中において、嬉野未来創造塾という記載が主要な事業の説明書の中にありますが、その創造塾の件で、どのような対象者を選定、また、何人ぐらいの規模で行うのか。先ほど講師に関しては答弁がありましたので、そういったところのビジョンを聞きたいと思えます。

それともう一点、これは商工会のほうに委託をされるということで、観光事業は商工会の

ほうに委託事業が結構多いですけれども、逆に商工会のほうから受託とかの負担がないのか。そういったところのマンパワーも必要になってくるけれども、そういったところが負担になっていないのか、そこも心配されるので、ちょっとお聞きしたいと思います。

それと、具体的なビジョンとして、どういうところから取り組んでいって、最終的なゴールをどこに設定されるのか、そこを聞きたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

嬉野未来創造塾というものにつきましては、この事業説明をする中で具体的に見えるようにということで、仮に嬉野未来創造塾としている段階でございます。はっきりとした名称等につきましては、今後、予算化された後に正式な名称等は考えていきたいと考えております。

嬉野未来創造塾の講師陣につきましては、先ほども言いましたように、地域資源を活用していく中では、やはり商品開発、マーケティングなど、多方面に精通した方の意見をお聴きすることが必要になってくると思いますので、観光カリスマや大学教授、実際に全国各地で活躍している実践者などを考えているところでございます。

それから、商工会への委託事業がかなり大きくなってきているのではないかとということでございますが、本来の商工会の役割、今現在していらっしゃることと重複する部分もかなりありますので、商工会のほうとの連携を深めていく必要もあるということで、委託事業という形で一緒に連携していくということで、委託したからといって商工会に投げかけるばかりではなく、市のほうも一緒になって事業展開はやっていくように考えているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

商工会のほうに丸投げじゃなくて、担当課のほうとの共同で行っていきたいというビジョンで私も理解しました。

そういう中において、先ほど山口卓也議員も質問されましたけれども、5のその他参考となる事項の中の組織づくりに関して、これは地域商社とは別に考えていきたいと。地域商社のことかということでお聞きをされたんですけれども、そうじゃないよと、また別に組織づくりをしていくというような考え方で理解していいものか、そこをもう一度確認したいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

全く別かという、全く別ということでもないんですけれども、これイコール地域商社かという、そうではございませんということで、今からやっていく上で、各組織一丸となっていくということでの取組でございまして、これが地域商社というのと似通っておりますので、していきながらどういう方向に進んだほうがいいかというのは今後研究していきたいと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

産業振興部長。

○産業振興部長（早瀬宏範君）

少し補足で答弁をいたしますけれども、今、課長が答弁いたしましたように、これがそのまま地域商社というようなものになるのかといえば、そういった意味合いではなくて、今回こういった取組をすることによって、少しずつ周りの方々との連携を深めていって、これが将来的に地域商社に結びついていくこともあり得るというようなことで展開をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

分かりました。

それと、ちょっと戻りますけれども、嬉野未来創造塾に関しては、あくまでも仮称ということでは、いいですね。——はい、分かりました。

組織づくりに関して、主要な事業の説明書、5. その他参考となる事項、②組織づくりには、商工会・金融機関との連携というようなことで地域商社のニュアンスも含めたような組織という形、していきながらそれをしていくというような形で展開していくという答弁でしたけれども、ここに地域資源の活用、発展のためにはということを書いてありますが、今後、組織づくりの中に、私としては福祉との連携、バリアフリーツアースセンターがせつかく機能しておりまして、嬉野の温泉にヘルパーさんが介助しながら入っていただける観光事業等々も展開されていますので、福祉の視点を入れた観光というビジョンも立ち上げていく必要性が今後あるんじゃないかなと思いますので、そういった視点も入れながら組織づくりを今後考えていただけたらと思います。そういう考え方について、最後お聞きしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

やはり地域一丸ということになりますと、福祉も欠かせない要素の一つだと考えております。嬉野市は幸い、UD関係はよそよりも一歩先を行っているような形でございますし、福祉関係につきましては、地域資源をとということで考えていく場合には、農福連携とかそういう面もございますし、資源を活用していく上では福祉のほうも入れていく必要は今後出てくるものだと考えておりますので、その辺も含めて今後研究していきたいと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

同じく地域資源活用対策事業についてお尋ねします。

ここでは、私も2人の議員の質問でありました地域商社との関わりがどうかというのがちょっとぱっと見たときに、組織づくりの中に商工会、金融機関とありましたので、地域商社との区別が何だろうかというのを思いましたけれども、今の答弁で大体分かりましたが、全然関係なくはないとも言われましたので、じゃ、この組織づくりの中に地域商社の方も入るということで理解してよろしいんですかということが1つ。

あと、500万円が計上されていますけれども、大枠に大体どのくらいの積み上げ的な積算というか、そういうふうにされたんでしょうか、まずお尋ねします。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

先ほども申しましたように、講師陣のどなたに来ていただくかによって費用がかなり変わってくるとは考えております。まずは人材育成ということですので、日本の中でもトップレベルの講師を呼ぶとなると相当な費用がかかると思っておりますので、約3分の2程度を講師を派遣していただく費用に使いたいと思っております。あと残りを組織づくりの費用ということで、地域商社というのはまだ嬉野のほうではできておりませんので、いろんなところを視察に行けたらいいなということで、組織づくりの費用の中にはそういうのも含んで積算をしているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

この中で、先ほど嬉野未来創造塾の中でトップレベルの講師の方をということですがけれども、塾の在り方として、例えば、お一人の方に来ていただいて何回かセミナーみたいにされるのか、内容的にどういうふうに進められるかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

はっきりとした内容は予算化が出来上がった後につくっていきたいとは思っておりますけれども、今考えておりますのは、昨年1年間、新型コロナウイルス対策でいろんなことをやってきました。そういう中で、地域の中にはまだ表に出てこられていない資源がいっぱいあるんじゃないかということで、こういう人材育成のためのセミナーを広くすることによって、いろんな考えを持っている、先進的な考えをお持ちの方がもしかすると発掘できるのではないかということで、市内全域に呼びかけをして、手を挙げていただいた方にセミナーを受講していただきたいと考えているところでございます。そういう人材を育成していくことですので、どういう形でしたほうがいいのか、つながりのある開催にしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

市全体の方に声をかけて幅広く参加していただくようにということですがけれども、塾の最終的な目標点はどういうふうに置かれているんですか。（「最終的な目標は人材育成のほうということですかね」と呼ぶ者あり）はい。どういうふうに最終的な着地というか。

○議長（田中政司君）

産業振興部長。

○産業振興部長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

人材育成の最終的な目標ということでございますけれども、意欲のある方々を新たに発掘することによって、これから先の嬉野の、例えば、商品であったりとか、観光であったりとか、そういったものに一緒に進んでいける方を育て上げていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、宮崎良平議員。

○6番（宮崎良平君）

先ほどからずっと聞いていたんですけど、この事業は観光協会に委託した観光DMOの流れと何かこう——ここがやるべきことなんじゃないかな。ここの連携というのが果たしてどうなっているのか、そこをお聞きしたい。

あと、これは一般財源として500万円どすと落ちていて、説明が嬉野未来創造塾と組織づくりということなので、先ほどここら辺の配分を説明していただいたのである程度は分かっていたんですけど、何をやるのかなというところがすごく気になって、ちょっとそこをお聞きしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

観光資源ということで考えますと、観光DMOのほうにとっても大きな部分を占めていると思います。ただ、地域資源を活用してというところになると、やはり地域の商工業者ということになってきますので、今回はまずは地域の資源の発掘等をということで商工会への委託を考えているところです。後々は観光DMOとの関係等も広く研究していく必要があると考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

宮崎良平議員。

○6番（宮崎良平君）

必然的に何かこれはくっついていきそうな気はするんですけど、くっついてくるというよりも、くっつけなきゃいけない。多分これは同時並行でしていかなくちゃいけないことだと思うので、そこら辺はしっかりとお願いしたいということです。

あと、これは組織という形で作る場合に、大体何名ぐらいとか、そういったものは全く決まっていない、今から決めていくということでもいいんですか。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

組織づくりのことにしましては、今から始めていくものでございますので、はっきりとした人数等はまだ決まっておりませんが、やはり先ほど議員がおっしゃるとおり、観光DMOとの関係もございまして、その辺を含めて模索しながら進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

宮崎良平議員。

○6番（宮崎良平君）

分かりました。

ただ、1つだけちょっとお願いがあって、観光カリスマとかってどうしても抵抗感があるんですよ。そこら辺も含めて、しっかりした講師陣を選んで進めていっていただきたいと思います。お願いします。

○議長（田中政司君）

次に、216ページから218ページの1項、商工費、4目、観光費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

観光費の中で、2つの事業を通して質問したいと思います。

その中で、観光産業活性化事業300万円、主要な事業の説明書134ページであります。こちらにつきまして、主要な事業の説明書で見えますと、これはずっと継続事業でありはしますけれども、6事業がプロジェクトとして載っております。このコロナ禍の中で、各チームにそれぞれ、例えば、これが300万円ですので、10チームで30万円だとしますと、30万円均等になさる予定なのか、状況に応じて、例えば、節減できるものは節減する、もしくは厚くするものはするとか、そういった対応をなさるのか、確認します。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

経費の節減につきましては、コロナ禍であろうがなかろうが、常に意識して事業経営を行っていくものだと考えております。新型コロナウイルス感染拡大により、これまでのやり方をそのままというわけにはいかなかったものだと考えておりますので、ウイズコロナでの誘客の仕方、PRの仕方、観光客の迎え方などが問われているものであると考えておまして、一律に予算を配分されているわけではなく、事業の内容によって配分をされているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

それでは、300万円の中で均一じゃなしに、状況に応じた形で、運用状況に合わせて配分をしているということですね。

そうしたときに、これはあくまでも予算ですので、これからのことでしょうかけれども、決算が間近に入ってきています。今月までで事業年度は終わりますけれども、令和2年度も同じような対応を、状況に合わせて配分される予定ですか。確認をいたします。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

市のほうの予算としましては、予算の積算上、10チームに一律にとということで積算をしておりますが、この事業につきましては観光協会のほうで取り組まれている事業でございます。300万円で行われているわけではなく、ほかの予算もつけて全体的に300万円を上回る予算の中でされておりますので、各チームの事業内容によって配分をされているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

観光協会の運営の中での市からのこれだけの補助金であります、となりますと、状況に合わせて、決算の段階ですけれども、締め段階ですけれども、場合によっては、活動が薄いところについては返金もあり得るということで見えていいんですか。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

観光協会のほうで、事業を実施されていないチームには予算配分はしないような形で取り組まれております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

それでは、136ページ、修学旅行誘致対策事業50万円です。これにつきましても、コロナ禍でありますので状況に合わせた対応が必要かと思っております。もちろん予算づくりは予算立てで結構ですから、今の状況に合わせた形の修学旅行への対応ですね。特に、嬉野もそうでしょうかけれども、地方、田舎の独特の農業体験等々あると思っておりますが、そういった形も含めて、誘客につながるような形の見直しはされておられるのか、それが誘致につながるよ

うな展開をなさっておられるのか、確認をいたします。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

農業体験につきましては、農泊としての需要が近年あるということで注目を集めているものであります。田舎では日常の何でもない光景が、都会や外国の方であれば珍しいものと感じられるものも少なくないものと思っております。修学旅行誘致の取組としましての御意見かと思われますので、団体としての農業体験のキャンペーン等もあると思いますが、各農家のキャパシティもあると思っておりますので、今後その辺につきましては勉強していきたいと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

補足ですけれども、我々の仲間でも生き生き吉田会というのをしていますので、この前もずっと耕作放棄地を展開して、農業委員会の方たちの了解を得ながらしておりますので、その一端に入れていただいたら我々も元気になると思っておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（田中政司君）

答弁は結構ですね。

○12番（山下芳郎君）続

はい。

○議長（田中政司君）

次に、山口政人議員。

○13番（山口政人君）

観光振興事業なんですけど、この増額の理由をお願いしたいと思っております。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

観光振興事業の増額の理由でございますが、観光協会に対する補助金であります。来年度の新幹線開業を見据えまして、組織を強化する必要があるものと考えております。ディステーションキャンペーンも控えておりますので、観光協会での役割も増加するものと思っており、市と連携して取り組んでいきたいということでありますので、組織強化も視野に入れ、増額を計上しているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

次の事業。山口政人議員。

○13番（山口政人君）

観光産業活性化事業なんですけど、これは毎年質疑があっているというふうに思いますが、実際どういった効果があっているのか、具体的にお願いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

これまで嬉野市地域力開発プロジェクト会議としての活動でありますと、国内観光チームであったり、インバウンドチームであったりと、それぞれ目的を持ったチームで取組を行っていただいているところでございます。

1つの例としましては、ホテルバス、ホテルの時期に各旅館を回ってホテル見学に行ってくださいというのが毎年恒例となっております。閑散期の対策として行ったものですが、現在定着してきておりますので、効果が出ているものの一つだと考えております。

また、日帰り宿コンin嬉野温泉とか、嬉野を会場として素敵な出会いと思い出をつくるような計画をして事業展開されているところでございます。

また、嬉野ふるるん女子会等は、新幹線駅開業をにらみまして、新幹線沿線自治体でここ数年行ってきた事業でございます。

また、去年はできませんでしたが、一昨年、インターコンチネンタルホテルでのPR事業、本市の食材を利用し、関東地区の報道機関へ広くPR等を行われてきたところでございます。

インバウンドチームに対しましても、地道な商談会の開催や広告宣伝に取り組みまして、外国人宿泊も10万人を超えるように増加してきたところでございます。今年度のコロナ禍の影響で、そのところは減少しておりますが、コロナ禍の前までは大きなところであったと考えております。入り込み客数につきましても、コロナ禍前は増加傾向にありましたので、活動の効果はあったものと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

次に、山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

主要な事業の説明書138ページのディスティネーションキャンペーン事業について、これは大きな事業で、私も気持ちを込めて質問していきたいと思っております。

まず、通告書の①嬉野市単独でのキャンペーンを実施するの可否かということですが、令和4年の秋に佐賀県と長崎県でのデスティネーションキャンペーンというのがあるというふうに認識をしておりますが、令和3年度は嬉野市単独でこういった事業を展開されるのかというのを伺います。

②で、実施時期と、ブースについては、ブースの大きさとか、そういったものを今分かるのであれば教えていただきたい。

③については市長にお伺いしたいと思いますが、この事業を実施するに当たって、効果を高めるための方策ということで書いておりますけれども、市長として重要なポイント、こういった指示をされていらっしゃるか、そういったものをお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

まず、嬉野市単独でキャンペーンを開催するののかというところからお答えいたします。

キャンペーンが開催されるのは、先ほど議員がおっしゃるとおり、開業1年前ということになりますので、来年度は単独での事業となります。佐賀県、長崎県も該当年には大きく動き出すと思いますので、嬉野市としましては新幹線開業効果を見込んで、開催前年となる今年度に先手を打って関西・中国都市圏を中心に嬉野市単独の事業展開を行うことによりまして、県等との事業と競合し埋もれることがないように考えているところでございます。

それから、実施時期、ブースについてということですが、開催時期や出展ブースにつきましては、予算議決後の折衝となりますので、現段階では未定でございます。新幹線駅開業をにらみ、観光協会、旅館組合等、関係機関と協議しながら、最大限の効果が得られるよう、関西方面等でのブース展開に取り組みまして、本市のPRを行い、キャンペーン本番の誘客への基礎づくりをしたいと考えております。タイミングにつきましても、1年前になりますので、周知を図るタイミングとしてはちょうどよい時期ではないかと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この事業実施の効果を最大限に高めるためのポイントということでもありますけれども、関西・中国、これまで特に中国方面というのは弱かったというところもありますので、私もそちらの出身ということも生かしながら、自治体への働きかけとか、また、広島方面へのメディア出演等もこれまでやってきました。関西方面についても、JR西日本は新幹線の博多

駅までの運行主体でもありますので、そういったところと、JR九州も当然その先を担うわけですから、JR間の連携の下で事業をやっていくということで、大阪にお伺いしたときには御挨拶、情報発信等も様々行ってきたところでもあります。

そういったところを下地にしながら、ひとまず鉄道でつながるということでもありますので、多くの方に関西から来ていただけるような仕掛けを随所に散りばめていく必要があると思いますし、私が関西方面でのセールス等々に立ったときに、関西の方というのは、いいものを一度買ったら、いろいろ変えるのではなくて、かなり長期的に御愛顧していただけるような、そういった風土であるのかなというふうに思っておりますので、農産物の販売等も含めて、関西の人たちの心に響くようなPRの仕方、これは関東方面へのPRとちょっと変えていく必要があるのかなというふうに思いますので、そういったところのマーケティング調査もしっかりこの事業の中で折り込んで、開業後の情報発信を継続的に行っていけるような、そういった地盤づくりにつなげられたらというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ありがとうございます。ぜひ積極的に取り組んでいただきたいということで質問しております。

私が考える重要なポイントというか、嬉野市の最大のミッションということで、それはまず新幹線だというふうに思っています。新幹線のフル規格、これは嬉野市にとってすごく重要なポイントで、まず、県民の方の理解を深めるとか、機運を高めるとか、必要性を認識してもらい、これが一番大事な課題なんじゃないかなと思っています。そういうふうに考えると、嬉野市単独で実施していただくことは十分にいいんですけれども、できることなら、令和4年度、県民一丸となって実施をしていただくので、できれば県内の観光課とか、観光連盟とか、嬉野市がブースを用意しますので来てくださいと。大事なのは、その活動を県民に知っていただくこと、新聞にも報道していただけるようにまず努力をしていただきたいんですけれども、例えば、嬉野市が一人で頑張っていますよというふうに報じていただくと、頑張っているんだというふうなことは伝わるとは思いますけれども、若干しらけられる可能性もあると思います。それよりも、嬉野市の観光だけじゃなくて、佐賀県の観光を広めましたというふうに、例えば、サガテレビとか佐賀新聞に報道していただくと、県民の方も理解をしていただくと。なおかつ、佐賀県の報道機関の方も、大阪の市民の方の声を届ける、これが大事だと思います。例えば、新幹線開業に向けての大阪市民の声を、先ほどの大阪の方、関西の方の気持ちを、こういったものをもう一回買いたいとか、そういったものを報道していただくと、県民にとって新幹線の開業というのがいいことだというふうに認識をしていただ

けると思うんですね。そういったことを、第2のミッションじゃないですけど、もちろん嬉野市のことを十分に認識してもらいながらも、そういったことも念頭に置いて事業を進めただけであれば、今回1,400万円という大きな金額に見えますけど、この金額が10倍とか100倍、それ以上の価値を生むような事業に変わると思います。

ですので、嬉野市の観光商工課だけじゃなくて、県内の観光協会にもちょっと働きかけをしたり、あとは新幹線・まちづくり課とか広報・広聴課とかとしっかり連携して、本当に全集中して取り組んでいただきたいというふうに思いますが、市長いかがですか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

まさに高速鉄道網と関西圏とつながるということの意義、これは私たちも従来より重要な課題であるというふうに認識をしております。そういった観点から申し上げますと、当然に我々嬉野市のPRだけではなくて、西九州観光の拠点としての嬉野でありますので、その周辺の観光資源も併せてやはりPRをしていく、これは鹿島、太良の酒蔵ツーリズムであったりとか、有明海産物群のPR、こういったような動きでも従来やっておりましてし、新しく有田、武雄との連合でやってきた、広域観光の中心地として、地図的にも、そして宿泊施設を多数抱えるという特質からいっても、嬉野市とプレゼンスというのは、もともと観光分野においては高いというふうに思っていますので、そこは下敷きにしながら、嬉野市だけが、俺が俺がということだけではなくて、この地域、嬉野市を中心とするエリア全体として魅力的な地域として認識をしていただくために、やはりこのデスティネーションキャンペーンの本番につなげていくための前事業としても、これだけの予算を投じているというふうに思っておりますし、議員御指摘のとおり、私たちもそれを多くの方に、そしてまた、関西の方にも新幹線でこの西九州に行ってみたいと思わせるような仕掛けをしっかりと努力してやっていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ぜひこの輪を広げていただいて、関西の方の利用も、佐賀県、嬉野市に訪れていただけるようにつなげていただきたいというふうに本当に思っていますので、よろしくをお願いします。

○議長（田中政司君）

次に、諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

私もこの分に関してはディステーションキャンペーン事業について、1,455万5,000円の計上についてお尋ねします。

先ほど山口卓也議員の質問でもありましたけど、そもそも、ちょっと私がかうといのでお尋ねしますが、ディステーションキャンペーンとはどういうものなのか、教えていただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

ディステーションキャンペーン事業とはということですので、お答えさせていただきたいと思います。

令和4年10月から、佐賀ディステーションキャンペーン事業ということで、佐賀県、長崎県とJR6社共通で佐賀・長崎ディステーションキャンペーンということで、佐賀県全域の魅力を全国への発信することにより、観光客の誘客促進及び地域の活性化を図るためのキャンペーンでございます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

ディステーションキャンペーンの、多分大卒のことを聞きたいんだと思うんですけども、これは……（「いや、ディステーションキャンペーンという文言はどういう意味なのか」と呼ぶ者あり）そうですね。だから、もっと大きなところで、うちでやるどころじゃなくて、そもそもそれは何なんですかということですよ。

お答えをしたいと思います。

これはJR6社、貨物を除く、北海道から九州6社ありますけれども、そこ自治体がタイアップをして、観光を、期間を3か月なら3か月ということで集中して、とにかくかなりの投資を行って宣伝をする、PRをするキャンペーンでもございます。

こういったところで、今回、佐賀・長崎で設定していますけれども、10月から12月の3か月、開業の間、かなりのメディアを引き連れてきてのツアーであったりとか、実は私も山陰のディステーションキャンペーンには、私が記者のときには行ったことがあるんですけども、とにかく何十社という、ミニコミ紙から大手のメディアまでいろんなメディアを連れてきて、いろんな観光名所を紹介して、とにかく記事を書いて、新聞に必ず何かその期間中はどこかの媒体で毎日載るぐらいの勢いでPRをしていくということでもあります。それを私どもの佐賀、長崎でやるとなると、恐らく九州はもとより、北海道から沖縄まで全てのメディアに露出をこの地域が一定期間するような大きなプロジェクトでもありますので、やはり新幹線開業という私たちの100年に1度の大事業の機会に訪れていただくためにも、この

流れには絶対に乗らなきゃいけないというような性質のものでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

ありがとうございます。課長もありがとうございます。ディスティネーションキャンペーンというのは、一定期間、様々な手段を用いて旅行目的地の広告活動を行うということで私は調べたものでありますけれども、その中でそういうふうな事業があるということで理解しておりますが、ある一定期間、様々な手段を用いて、旅行目的地、これは西九州観光になると思いますけれども、そういう宣伝活動を行うことで、嬉野市が令和4年から始まるのに先立って関西圏からのお客さん呼び込む事業を行うと、広告活動を行うというようなことで私は理解しておりますけれども、そういう認識でよろしいかどうか。

それともう一点、来年度から本格的に県の事業、国の事業が関わってくるかも——埋もれないためにも3年度から行うよというようなことでおっしゃられましたよね。そうした場合、令和4年度から県の事業等々でも大々的に行われるということで、並行して嬉野市も行っていくということであると思いますけれども、その辺のビジョンとして、これは今1,500万円弱ぐらいの一般財源が入っているんですが、来年度は補助金とかそういったのが入ってくる予定はあるのかどうか、そこも踏まえてお尋ねしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

第1点目につきましては、議員がおっしゃるとおりだと考えております。

令和3年、4年の話になりますけれども、来年につきましては、うちのほうは今単独の事業を予定しているわけでございますけれども、3年の秋にはJR九州でも何らかのPR活動を行うということでお話を聞いているところではございます。それと、令和4年には、秋に開催されるのが長崎、佐賀、両県とJR6社も一緒になってやっていくということでございますので、市単独で行うというのは来年の時期だけになってきますので、そこでやはりほかのところに埋もれないためにも市のほうで一步前にやっておく必要があるのではないかなということで、今年度単独で事業展開をお願いしているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

分かりました。嬉野市が4年度から始まることよりも先立てて、まずはやっていくというような状況ですね。それは理解しました。

そういった中で、これは佐賀、長崎で最終的に大々的なキャンペーンが打たれるというような内容だったんですけども、山口卓也議員もおっしゃられたとおり、これは関西圏からお客さん呼び込むための西九州観光の拠点づくりとなる、本当にいいキャンペーンだと私も思うんですけども、フル規格というのがもしビジョンとして並行していけば、さらに拍車がかかって相乗効果が出てくると思うんですけども、この事業はこの事業で推進していきながら、もう一つの両輪として、フル規格の機運を高める動き、また、その旗振り役、それも市としては行っていく必要性が十分にあるんじゃないかと思いますので、その辺の意気込みも踏まえて、最後に市長の答弁を伺いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

新幹線のフル規格整備については、嬉野市としては、やはり高速鉄道網とつながることのメリットを最大限享受する上で必要不可欠であるという観点から、全線フル規格での要望を従来からしているところであります。

一方、佐賀県、嬉野市を除くところであれば、そういったところでまた沿線でもない地域もございます。そういったところで慎重な声が多いというのも事実でもありますし、その中には新幹線の効果に対しての懐疑的な声であったりとか、また、直接的なメリットがないというような考えの方も多々いらっしゃる、それは私自身も現時点ではそのように考えるのが自然だろうというふうにも思いますし、その考え自体は私も尊重すべきだというふうに思っております。ただ、開業を一つのきっかけとして、嬉野市が爆発的に広域の観光客を呼び寄せて、その効果が全县に波及していく、そういったことを考えていく中で、少しずつ県民世論も変わっていくのではないかとというふうにも考えておるところであります。

そういった意味では、これをフル規格での整備を求めるためにやるわけではありませんけれども、とにかく佐賀県全域に、せつかく鉄路でつながる、これは間違いないことですから、その効果を最大限波及して、重ねてになりますけれども、西九州の一つの、一枚のエリアとして魅力的なまちにしていきたいと考えておりますので、そういった視点ではしっかりこのキャンペーンにも取り組んでまいりたいというふうにも考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

次に行きます。

18節の負担金、補助及び交付金の観光産業活性化に関してですけれども、これは先ほどもいろいろ質問があっただけでも、主要な事業の説明書のその他参考となる事項のところには10のプロジェクトチームが記載されていますけれども、その中で、令和2年度当初には10番目に伝統芸能保存会というようなチームがあったかと思います。それが今度、令和3年度、WEBチームに変わっているというような状況ですけれども、それが何なのかということをお聞きしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

もともとウェブを使った観光PR、宣伝等も行われていたところでございますけれども、今回のコロナ禍の中で、やはりウェブでの観光発信、広告宣伝が占める割合が非常に大きくなってきたということで、今回、WEBチームというのを表に出してきたところでございます。以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

WEBチームの参入に関しては分かったんですけれども、今まであった伝統芸能保存会というチームは、これは活動がないからなくなったのか、また別に活動方法を見いだして活動されているからここから出られたのか、そういったところがはっきり分からないのでお尋ねします。

○議長（田中政司君）

暫時休憩します。

午前10時24分 休憩

午前10時24分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

観光協会のほうからいただきました2年度の事業計画の中に、チームの中に伝統芸能保存会のチーム名が載っておりませんでしたので、今回、WEBチームということで記載がありましたので、そのWEBチームを載せているところでございます。

活動自体につきましては、伝統芸能保存会もしていらっしゃるものだとは思っておりますが、予算が関わっているかどうかにつきましては、今後、観光協会のほうに詳しく確認を取りたいと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

令和3年度の事業計画の中に、この伝統芸能保存会というのが入っていなかったから外したということですよね。令和2年度じゃなくて。3年度ですよね。——2年度。（「2年の……」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

ちょっとそこら辺の確認。

○2番（諸上栄大君）続

もう一回確認で、すみません。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

予算計上をするときに2年の計画を基にさせていただきましたので、まだ実績等が上がってきておりませんでしたので、2年の計画を基につくっておりますけれども、その中に伝統芸能保存会というチーム名がありませんでしたので、今回載せていないところでございます。

3年の実際の事業計画をされる際に、またチームの事業の配分が変わってくると思いますので、その中では伝統芸能保存会も入ってくる可能性もあると考えております。今現在の段階では、実際に2年に実施された事業計画に基づきまして予算の基礎資料とさせていただいているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

そいぎ、もともと令和2年度の主要な事業の説明書の中の10番目に伝統芸能保存会というのがあったわけですよね。それが令和3年度の主要な事業の説明書の中でなくなっているという状況でお話をしておりますが、令和2年度の主要な事業の説明書を作成する際に、伝統芸能保存会というのが計画書として上がってきて、実際、令和2年度の実績報告を見たときに伝統芸能保存会というのが削除されていたということで理解していいものなのか。もともと

とこの予算、これは委託なので、市からの予算は伝統芸能保存会が使わないで、ほかの予算で活動をやったよというような内容だったから記載されなかったものなのか、そこははっきりしているのかどうかというところで、ちょっと私そこが一番、今説明を受けながらですけど、理解に苦しんだところだったので、最後ですけど、お尋ねしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

令和2年度の予算計上をする際には、伝統芸能保存会が新たに設立されたということで観光協会のほうに加入されましたので、今後、チームとして動かれますよということで、2年度の予算計上のときには基礎資料の中にチームとして入れておりました。実際に今現在、2年の計画で聞いた中では、予算計上は観光協会のほうの予算の中には入っていなかったもので、3年の予算積算基礎の中には今現在チームとしては入っていない中での計上となっております。

先ほど言われましたように、議員がおっしゃるとおり、ほかの予算から出ているかどうかにつきましては観光協会のほうに確認を取りたいと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

私はまず、ディスティネーションキャンペーン事業についてお尋ねいたします。

こちらは後でDMOを核とした地域ブランドづくりも質問させていただくんですけども、今回、資料を請求させていただいたときに、もっと詳しい資料をと思って請求したんですが、これで精いっぱいですということで受けたので、いただいた資料にちょっとがっかりしたところもあります。先ほど、この観光費ですね、3年度が全体で1億3,736万円とありますけれども、2年度よりも3,900万円、約4,000万円増額になっております。

そういった中で、資料をいただいたときに、産建の委員会でもどうやったですかと聞いたら、やっぱりもっと詳しい資料をいただきたいという声があったということもお聞きしております。——違いますか。（「詳細が……」と呼ぶ者あり）要望というか、はい。

○議長（田中政司君）

そこで私語はやめて。

○8番（増田朝子君）続

ということをお聞きしています。要望を言われたということをお聞きしました。

その中で、今回も1,400万円という多額の予算なんですけれども、これが通りましたら

具体的に進めますという答弁がよくあるんですが、そこで審議というのがなかなか、それは議案質疑の中ではするんですけども、数字的なことが出てこない、なかなか審議も難しいんじゃないかなというのを私は感じています。

そういった中でお尋ねしますけれども、これまでもいろいろ関西に向けたりとか中国地方への広報活動とかされてこられましたけれども、そういったイベントというか、広報活動に対して、課題もいろいろあったかと思います。その中で、課題を検証されて今回どういうふうに生かされて臨まれるのかなということが1点。

それと、単独のイベント、嬉野市独自のイベントということですが、例えば、これも隣の武雄市さんと共同でできなかったのかと思ったんですが、あと、長崎県の新幹線沿線の市町の動向的に、そういうふうにキャンペーンをされる計画がえられるのかというのは、情報としてはどんなでしょうかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

資料が少ないということは非常に中が見えないということで御指摘のとおりのところもありますが、このディステーションキャンペーン事業につきましても実際にどういうふうにするかというのは、コロナ禍でもありまして、まだはっきりどこで何をするというところまでは詰めていないところでございます。

まず、ディステーションキャンペーン事業というものにつきましては、先ほども市長のほうから説明があったように、JR各社と旅行業界、それから、対象地域の自治体と観光業者などが実施する観光振興の取組でございまして、年4回、四季に合わせて実施されておりまして、全国の駅でポスター、テレビCM、チラシ等によるPRが行われております。来年の秋、九州新幹線西九州ルートの開業が予定されておりますので、これまで同様、これに合わせて令和4年秋、10月から12月に佐賀県、長崎県全域で開催されることが決定されております。この機会に合わせて、嬉野温泉駅が開業いたします嬉野市においても経済波及効果を高めていくために、全国に向けて嬉野市の情報を発信し、魅力的な観光地づくりに取り組み、観光客の誘客拡大につなげていく予定としているところでございます。

開催前年となる今年度につきましては、新幹線開業効果を見込んだところでの関西・中国都市圏を中心に嬉野市単独の事業を実施する予定でございまして、連携できなかったかということでございますが、単独でしないと嬉野市自体を売り込むことは難しいと思います。佐賀県、長崎県合同で行う場合には西九州ルートということで全体でのPRになってしまいますので、嬉野市独自のPRということではこの時期にしないとできないのではないかとということで、来年このディステーションキャンペーン事業を実施させていただきたいというこ

とで計上しているところでございます。

予算につきましては、大きな予算となっておりますけれども、JR西日本とタイアップした事業の展開、それから、マスコミ各社等へのキャラバン、それから、関西・中国都市圏における情報発信ということで、テレビ、ラジオ、雑誌、また、交通広告等を考えているところでございます。その値段につきましては、具体的な費用につきましては、出す場所によってかなり変わってきますので、大きく変動するものだと考えております。

それと、イベント出展ということで、イベント開催時にはブースの借り上げ料が必要になってきますので、そういうものも予算の基礎にしているところでございます。

それから、各業者向け事業にも旅行業者各方面にパンフレットを配る必要があるということで、パンフレットの印刷代等、それから、やはり行くに当たってはキャラバン等を組んで行くとなりますと旅費も必要になってきますので、その参加人数等によって旅費も大きく変わってくるし、どちらに行くかによっても旅費は変わってくると思いますので、具体的な予算計上というところでの積算資料となりますと非常に難しい面がありますので、過去の実施された事業の予算規模に合わせた形で参考として予算を計上しているところでございます。

以上です。（「これまでの課題等を……」と呼ぶ者あり）

これまでの課題を踏まえての踏襲なのかということですが、嬉野温泉駅開業というのが100年越しの夢がかないましてやっと温泉駅ができる大きな事業でございまして、今までにこのような事業をやった経験はございませんので、ほかの開業された新幹線駅開業に向けてのキャンペーン等を参考にさせていただきますので、今回、予算計上をしているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

今詳しく御説明いただいたんですけれども、ある程度の計画というのは先ほど言われました、ここに委託料がブース料等1,000万円とありますので、今言われたようなことを計画としてあるんだったら、ここに記載していただけたらなというのを思いました。

それと、これまでのイベントでの課題とか検証とかと申しましたけれども、今回は新幹線のJRとのタイアップというのが初めてだからということですが、これまで嬉野を知っていただくためのイベントが多くなされてきたわけですが、それと大きくどういうところが違うんでしょうか。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

確かに今までも関西方面等にも観光誘客PR事業ということで、いろんな事業展開を行ってきております。大きく違うのは、今回は新幹線の開業ということですので、新幹線を使って嬉野市へ来ていただく、ひいては新幹線の便数も増やしていただくためには、やはり新幹線を使って来ていただくということが大きな課題になってくるのではないかと考えているところです。

以上です。

○議長（田中政司君）

増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

それでしたら、今、山口卓也議員からもありましたけれども、地元の私たち、市民にとって、開催されている様子とかがなかなか伝わらないというか、ホームページとか、いろいろ広告とかに載せてもらうことはあるかもしれませんが、それに向けて頑張ってもらっているというのが地元の方は肌で感じられていないんじゃないかなと。だから、そこをもう少し、これだけ予算をかけてしていただくんだったら、やはり地元の方の機運も醸成してもらおうような、外向けばかりじゃなくて、足元を固めてもらうためにも、情報を発信するのいいんですけども、市民の方と一体になって情報を発信してもらおうとか、そこにもう少し力を入れていただきたいなと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

やはり地元を巻き込んだ各種PRをしていくことが大事だということは私もそのとおりでろうというふうに思います。そういった意味では、関西方面でのPRとか、そういったところは地元メディア、佐賀新聞の出先に取材してもらうこともあるんですけども、それだけではなくて、いろんなメディアに出るというよりかは、そのPRに市民の方が携わってもらうのが一番実感してもらうきっかけになるんじゃないなというふうに思いますので、まさにこうした予算の外の枠で、先ほど御質問いただいたような地域の人材を発掘していく事業とか、まさに自分たちの手でPRをしていく人を、今こうやって人づくりをやっておりますので、そういったところで皆さんが自分でPRに出たいという方、農業女子のマルシェの支援なんかもその一つだと思うんですけども、いろんな形で自分でやってもらうことが最大の地元へのPRになるんじゃないかなと思いますので、私たちとしても多くの方をお誘いしながら、こういったブース代もかなり計上しているのはそういった背景だというふうに思いますけれども、今後のPRに努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

次、嬉野版DMOを核とした地域ブランドづくり推進事業。増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

続きまして、嬉野版DMOを核とした地域ブランドづくり推進事業1,000万円でお尋ねします。こちら、これだけ1,000万円の予算計上で説明書にないというのがあれかなと思ったので、高額な予算は説明書をいただきたいなと思いました。

それで、以前の分を見せてもらって、これも資料をいただいたんですけども、ただ、事業名だけと、全体的な予算の資料をいただきましたが、こちらまず、次年度に対しては計画書というのがあってから出されると、事業の中に、前年度と違ったこういうことに取り組みたいとか、そういう計画書があるの予算組みじゃないかなと思うんですけども、その辺が全く例年と変わらないような内容なのかというのがありましたので、ここで具体的な取組を伺いたかったわけです。

それと、DMOということで、これまでずっと国からの交付金があって、DMOになるようにずっと働きかけていただいていたんですけども、その進捗状況というか、候補までになったということですね。候補として嬉野市が登録の手前までというのは聞いていたんですけども、その後、DMO登録に対しての進捗状況とかはどうなっているのでしょうか。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

具体的な取組の状況を伺うということでございますけれども、令和3年度の具体的な取組のことでございますが、この事業は観光協会に対しての補助金でございます、観光協会のほうで事業を行っていただくものでございます。その補助申請の中で事業計画が示されまして、その事業計画に基づいて、適正な計画となっているのかを判断し、決定しているところでございます。現段階では、今までの取組を踏まえて、アフターコロナに向けての取組を模索してもらっているところでございます。

この大きな柱としましては、先ほど議員がおっしゃいましたとおり、DMOの候補法人になっているということもありまして、嬉野のブランドづくりや情報発信、魅力発信、新コンテンツ開発等に取り組んで、嬉野版DMOの構築を目指していただくものでございます。

ただ、観光業というのが、今までは多くの方に来ていただいて、誘客数が増えたということで観光業が発展しているというふうに評価をしていたわけでございますけれども、今現在のコロナ禍の中で団体で来られるというのは、本当にそれだけでいいのか、団体で来ることが可能になるのかということが今見えない状況でございますので、今回、今までずっとやってきた支援策等と一緒に観光協会とやってきておりますので、新型コロナウイルス感染

症終息後を見据えて、DMOにつきましてももう少し広く研究していく必要があるのではないかなということで、進捗状況としましては、去年はまだ進捗はそんなにしている状況ではなく、今後、DMO本登録に向けては研究をしていく必要があるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

この事業は観光協会に補助金ということでありましたけれども、そしたら、いろいろ事業があるんですが、全て観光協会にお願いしているということで、担当課としては関わりがないんですかね。例えば、一つ一つの事業に関しても一緒にさせていただいて計画書とか作り上げていくのかなと思っていたんですけれども、全て観光協会にお願いしているということですか。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

丸投げしているということではございません。観光商工課も一緒になって行っております。ただ、事業計画をつくる際に、市が計画をつくるわけにはいかないの、観光協会と協議しながらつくっていくということでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

増田朝子議員。

○8番（増田朝子君）

丸投げしているとは言っていないけれども、この事業の中身として、資料として出せないみたいなふうに受け取れたので、本当は一緒になっていただいているとは思いますが、きちんと計画は出てきてもいいんじゃないかなということでお尋ねしました。

○議長（田中政司君）

産業振興部長。

○産業振興部長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

この観光DMO自体の最終的な目標ということになれば、基本的には稼げる観光を目指しましょうというのを目的にこの観光DMOが立ち上がったところでございます。

前の御質問で諸上議員のほうから、UDあたりとも一緒にやれないかというようなお話も

ございましたけれども、そういったところも取り組みながら観光DMOというのはつくっていきべきだろうというふうに思っております。そういった意味では、いろんなメニューを観光商工課、観光協会、一緒になって協議をしながら進めているものでございますので、一概にこれが全ての資料ですということではなかなか出しづらいということでの課長の答弁だというふうに思っておりますので、決して資料を出したくないとか、そういったことで課長が答弁しているものではないということで御理解をお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

少しスピード感を持って質問したいと思います。

ディスティネーションキャンペーンですけど、デスティネーションというのは日本語に訳したら旅行目的地、旅行先のことですね。だから、嬉野を目的地としたキャンペーンをしたいという事業であると私は存じます。

それで、一番分かりやすいのは、御存じかも知れませんが、日曜日の朝7時から「遠くへ行きたい」という番組があります。JRグループが提供してやっているですね。その中で、京都ディスティネーションキャンペーンということで、「京の冬の旅」ということでCMをやっておられます。デスティネーションというのは多分そういうことだろうと私は思うんですよ。そういうのを参考にされたら、タレントさんか誰かこちらのほうに来られて、あちこち体験とかいろいろされて、そういうのを30分の番組でつくっておられますので、よかったですらそういうのを参考にされたらいいと思います。

それで、1つだけ質問します。ここに上げておりますけど、キャンペーンの時期ですよ。今すぐといったらこういう時期ですので何の効果もないと思っておりますけど、今年度の後半、先ほど市長は3か月ぐらいの期間を置いて集中的にするのがディスティネーションキャンペーンということでしたので、実施するにしてもいろんな話合いとか準備が必要です。だから、大体どの辺の時期に考えておられるのか、その1点だけお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

今年度実施しますのは単独の事業でございますので、JRが秋にJR九州主催で何か考えているということを知っておりますので、かぶらないように、嬉野市が効果的に広告宣伝できるようにということで考えていきたいと思っておりますが、コロナ禍の状況ですので、具体的にこの時期というのはまだはっきりしていない状況でございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

この事業は嬉野市単独でやられるということで大変なことだと思います。来年度になったら県と沿線自治体が一緒になって——来年度は単独でできないんでしょう。だから、今のうちにしっかりやりたいということです、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

議案質疑の途中ですが、ここで11時5分まで休憩いたします。

午前10時53分 休憩

午前11時5分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

次に、219ページから220ページの1項、商工費、5目、観光施設費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

源泉集中管理事業についてであります。今年度、記載のとおり、残り4か所であります。同意を得られるように積極的に、今回で完了できるように進めていただきたいと思っております。

あわせまして、合併特例債はいつまで利用できるのか、質問します。

○議長（田中政司君）

観光商工課長。

○観光商工課長（中村はるみ君）

お答えいたします。

令和3年度の残りの4か所の同意は得られる見込みかということでございますが、源泉集中管理モニタリングシステムはあくまでも個人の所有物に取付けをお願いするものでございますので、現在交渉中の4か所の同意を得られるように丁寧に説明をしていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

財政課長。

○財政課長（山口貴行君）

合併特例債の借入期限につきましては、令和7年度までとなっております。

以上です。（「了解しました。以上です」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

次に、山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今の山下議員の質問で理解しました。取り下げます。

○議長（田中政司君）

これで歳出214ページから221ページの第7款、商工費の質疑を終わります。

次に、歳出222ページから236ページまで、第8款、土木費について質疑を行います。

まず、232ページの4項、都市計画費、5目、公園費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

社会資本整備総合交付金事業（公園施設長寿命化対策支援事業）で、都市公園2つと、もう一つはカントリーパークと記載してありますが、これはどこを指すのか、それを併せてよろしく願いいたします。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

カントリーパークになりますけれども、こちらは塩田地区の北部公園が対象となります。

以上です。（「2か所はどこね。あと2つ」と呼ぶ者あり）

すみません。嬉野地区のみゆき公園と轟の滝公園となります。

○議長（田中政司君）

辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

具体的にどういった長寿命化対策を行うか、そこをお願いいたします。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

本市では平成26年度に策定した嬉野市公園施設長寿命化計画に基づきましては、現在、嬉野市公園施設長寿命化対策支援事業により施設の更新を行っているところでございます。

今回の事業内容につきましては、現状の施設の把握と健全度を再調査するものでございます。今回、計画を見直して更新業務を行うということになります。

以上です。（「はい、結構です」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

次に、山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、課長の答弁で大体分かりましたが、確認ですけど、今回、平成26年度に作成された嬉野市公園施設長寿命化計画を見直すということは、長寿命化に向けて見直すということで理解しとってよろしいですか。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

御質問のとおり、今回もう一度見直しをして、長寿命化で国の補助事業、2分の1になりますけれども、そういうものにきちんとおのせて改修を行っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

その見直しが必要になったという状況なので今回見直すということですね。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

前回調査をかけてから時間がたっておりますので、再度の見直しを図って緊急度等も確認をしていきたいと思っております。

以上です。（「はい、いいです」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

次に、232ページから233ページの4項、都市計画費、6目、嬉野温泉駅周辺整備費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

嬉野温泉駅周辺整備関連事業であります。1億1,270万円計上されております。来年秋に新幹線開通となりますけれども、本年度の事業を遂行することによって全体の何割が整備できるのか、確認をいたします。

もう一点、東口の駐車場工事は令和2年度で計上されておりました工事が上がっておりますけれども、完了できているのではないかと思います。その確認。ただ、繰越明許に駅周辺整備事業が6,483万8,000円上がっていましたので、その分に入って今年度に繰り越さ

れたのかということでの確認です。

あと、3点目が、民間の仮換地はいつ戻される予定なのか、確認をいたします。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

事業の進捗ですけれども、令和3年度事業において、ほぼ完了する見込みとなります。

続いて、駅東口の駐車場の整備ですけれども、令和2年度予算で防火水槽の設置、路盤までの整備工事までを計画しております。3年度におきましては、舗装と車止め、区画線、道路標示等の整備となります。

それと、民間の仮換地ということでありまして、現在、仮換地の状況でございます。最終的な換地処分につきましては、全ての工事が完了し、確定測量を行い、その後、換地計画の許可を受けた後となりますので、令和5年度を予定しております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

1点質問いたします。

企業誘致ビルがありますけれども、その隣、また、川下といいますか、あちらのほうで駅周辺の整備事業に入っていないかも分かりませんが、今そのままになっています。その部分はこういった形で用途といいたいでしょうか、計画があるのか、確認します。

○議長（田中政司君）

暫時休憩します。

午前11時12分 休憩

午前11時15分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

山下芳郎議員。

○12番（山下芳郎君）

再度質問いたします。

東口駐車場と川沿いに個人の民家がありますが、その手前の用地について計画がありましたらお尋ねします。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

今回の嬉野温泉駅周辺整備関連事業には直接関係する部分ではございません。

以上です。（「了解しました」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）これでよかですね。（「いいです」と呼ぶ者あり）

次に、山口政人議員。

○13番（山口政人君）

取り下げます。

○議長（田中政司君）

これで歳出222ページから236ページまで、第8款、土木費の質疑を終わります。

次に、歳出237ページから242ページまで、第9款、消防費について質疑を行います。

まず、237ページの1項、消防費、2目、非常備消防費について質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。山口政人議員。

○13番（山口政人君）

消防団員の訓練と出勤手当、これは他市町と比べて適正なのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

お答えいたします。

こちらの費用弁償ということになりますけれども、この金額につきましては、本市におけます出勤ですとか、訓練の日数の予定、または予測に基づく額ということであります。

他市町と比べてどうかということでは、単価に関して言うと、おおむね当市の単価的には比較的他市町より高めということではございますけれども、総額としては必要な経費ということで計上しておりますので、適正ということで考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、241ページの1項、消防費、5目、災害対策費について質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。山口政人議員。

○13番（山口政人君）

大草野の防災広場の件なんですけど、この維持管理費の内訳をお願いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

お答えいたします。

内訳につきましては、貸出しの際の利用の受付管理業務、それから、草払いが年に4回、そして、トイレの清掃業務が現在、大草野のコミュニティにお願いしている基本の額ということで、これが合わせまして今年度につきましては72万4,627円、積算においても同額ということで予定をしております、そのほかに管理上の必要な経費が20万2,000円ということで、合わせまして92万6,627円を計上しております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口政人議員。

○13番（山口政人君）

この大草野の防災広場は実際私も見に行っただけですけど、中身は運動広場なんですよ。駐車場もあり、倉庫もあり、ベンチもありというようなことで、恐らく運動広場だったと。名称は防災広場、いざとなったら防災広場、瓦礫置場にもなろうかと思えますけど、実は塩田町にも農村公園が7か所ぐらいあるんですよ。そこの維持管理は全部地元がやっているんです。ただし、維持管理費は出ていないというようなことで、そこら辺の均衡はどうなんでしょうかね。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

お答えいたします。

こちらは大草野の防災広場の成り立ちが、元はといえば防災のために活用すると。具体的には、災害廃棄物の仮置場としての活用を第一に考えておりますので、通常、それを想定した管理が必要ということで、取得から整備から、それから、維持管理に関してもそういった形で、基本的に行政目的として設置された施設ということで今のような管理の形にしておるということでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口政人議員。

○13番（山口政人君）

この件に関しては私も相当反対をしたいきさつがありますけど、結局は大草野の防災広場も運動公園と一緒になんですよ。ですから、あとの7か所の農村公園に対しても何らかの維持管理費、お互いに市有地ですから、そこら辺のこともやはり検討する必要があるんじゃない

かろうかというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

私がお答えしてよろしいかどうかちょっとあれなんですけど、大草野の防災広場につきましてはそういった形で整備をしていると。例えば、災害廃棄物の仮置場と申しますのが、その地理的条件ですとか、進入路の条件ですとか、広さの条件ですとか、いろいろございまして、実際に通常は地域の憩いの場として活用していただくこともできますけれども、それはそれで、元はといえば防災目的として整備したものでございますので、今後、防災に関する施設ですとか、そういったものは考えていかなければいけないと思いますけれども、成り立ちとか様々な地理的条件、それから、進入路の条件ですとか、そういったものを勘案して防災施設というものを見直していく中で、そういう適地があるならば、そういったところにも検討の余地があるということで考えているところです。

以上です。

○議長（田中政司君）

これで歳出237ページから242ページまで、第9款、消防費の質疑を終わります。

次に、歳出243ページから291ページまで、第10款、教育費について質疑を行います。

初めに、244ページから246ページの1項、教育総務費、2目、事務局費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

情報教育指導員配置事業であります。情報教育指導員というものは、G I G Aスクール構想において非常に大切な役目だというふうに思っておりますが、ただ、これが任期付職員ということで1年間契約でありますし、報酬、そこの辺を勘案して、本当にその金額や待遇でこの方たちを雇うことができるのかということと、また、1人増やして3人ということでございますけれども、この人数で対応は十分なのかということをお尋ねいたします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

情報教育指導員については、費用面や地域人材の雇用を念頭に置きまして、I C Tの専門知識を有する方を直接雇用しておりますが、直接雇用ですと報酬額が定められておりますので、応募が少ないのが実情でございます。全国的に学校や教育委員会が求めている人材でございまして、やはり条件がよいところに行かれてしまうというのが実際のところだと思っております。市としましては、引き続き募集は行ってまいりますけれども、雇用の形態など

について、もっと柔軟に人材が確保できるような方法を検討してまいりたいと考えているところでございます。

また、人数につきましては、令和3年度に1名を増員して3名とする予定にしています。国のほうは令和4年度までに4校に1人の配置を目指しております。市としても4校に1人ですので、3名で目標には達しておるところでございますけれども、ICT支援員は今後ますます役割が重要になってまいりますので、人員の数を含めて、支援の方法なども考えていく必要があると考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

いわゆる今回の予算にもありますように、小学校1年生からタブレットを貸与するというふうな形において数も増えますし、そういった意味ではその対応には人数共々必要だと思うんですけども、ただ、契約の条件というか、そういったので非常に確保が厳しいんじゃないかなと私は思うんですけども、そこら辺、市長はどう考えておられますか。

○議長（田中政司君）

教育部長。

○教育部長（永江松吾君）

お答えいたします。

確かに、タブレット端末が学校に入っておりますので、支援員は本当に必要な人材だと思っております。今の会計年度任用職員で雇用する場合、職種別基準が決まっていますので、この単価にならざるを得ないわけですが、これは多いほうがいいというのは間違いありません。各校に1人とか入ったほうがもちろんいいわけですが、やはりそうすると、一般財源でございますので財源等の関係もございまして。そういった意味で、先ほど課長も答弁いたしましたように、柔軟な対応ができるような方策も考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

初期段階で、例えば、今配置されている先生の間でも慣れてくれば指導はできると思うんですけど、先生は異動するわけですね。だから、習熟した先生がおって、その人が指導するのも学校によっては可能だと思うんですが、また異動があつてばらばらになるから、やっぱり重要になってくるのは指導員だと思うんですよ。そういった意味では、柔軟に対応する

と言われましたけれども、結果を見て、やはり足りないとなれば柔軟な対応を考えていただきたいというふうに思いますけど、そこについて再度お願いします。

○議長（田中政司君）

教育部長。

○教育部長（永江松吾君）

お答えいたします。

タブレットが入ってくるのは嬉野の学校では初めての試みなんですね。先生方にももちろん慣れていただかないといけませんので、そのためにはいろんな研修のほうを市独自でも行っていく予定でございます。そういった中で、先生方の要望とかニーズをお聞きしながら対応してまいりたいと思います。

○議長（田中政司君）

次に、諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

私は事務局費の委託料ということで、予算には上がっていないというところで書いております。嬉野市の資源は、人づくりと私も思っております。人づくりのためには、将来の嬉野市を担ってくれる子どもたちに投資を行って基礎学力等を向上させることが人づくりの一つの方法だと思っています。

それで、今年度まで嬉野市子ども学校塾事業を教育委員会としてはなさっておられました。もちろんこの事業については、佐賀県でも特異な事業で、嬉野市単独であるし、教育長の肝煎りの事業だと今まで私は思っておりました。

それで、今回の予算書を見たところ、この事業が載っていなかったというか、私が見つけ切れなかったのか分かりませんが、載っていなかったので、予算要求をしたけれども通らなかったのか、もともと予算要求しなかったのか、教えてください。

○議長（田中政司君）

学校教育課長。

○学校教育課長（山浦 修君）

お答えをいたします。

この嬉野市子ども学校塾事業につきましては、議員御発言のとおり、今回、臨時休校明けの授業の回数を増やして、子どもたちの生活、学習習慣を整えるという意味では非常に効果があったというふうに認識をしております。ただ、新型コロナウイルスの状況が依然として終息に向かわない状況で、今子どもたちのことを考えたときに、子どもの安全・安心を確保することが一番重要であるというふうに捉えておまして、スクール・サポート・スタッフを昨年度9月から任用させていただいておりますが、このスクール・サポート・スタッフの感染対策等に係る業務は、非常に学校も助かっていらっしゃるし、感染防止に大きな意義が

あったというふうに思っております。そこで、子どもの安心・安全を確保するために、来年度はスクール・サポート・スタッフを1年間任用したいというところで、その予算を計上しておりましたので、今回、子ども学校塾の事業というところの予算計上をしておりません。

以上でございます。（「要求はしなかったということですね」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

要求をしなかったということで理解していいのか。（「しなかったということでいいですね」と呼ぶ者あり）諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

スクール・サポート・スタッフに立ち代わったということですが、子どもを放課後児童クラブにつなぐまでの非常にいい事業であったし、佐賀県でも注目を浴びていた事業だと私は思っております。スクール・サポート・スタッフ配置事業も大事なだけども、ぜひこれは何とか残してもらいたいと思っているんですが、今後、市の方向性としては、こういう事業は今回で終わりにするのか、また来年度以降に復活させようと思っておられるのかをお尋ねします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

来年度に向けての復活という話でございますが、これまで長年にわたってしてきましたけれども、実は課題も出てきたわけです。例えば、1,000万円を超えた場合には消費税を払わなくてはならないという部分もありましたし、それから、このたびコロナ禍の中でなかなかスムーズにできないという部分もありました。しかし、議員御指摘のように、子どもたちの学力の向上については大きな役割を果たしているし、アンケートを取ったところでも、保護者の皆さん方もぜひ来年度も行きたいという要望等はあると聞いております。

そういう中でありますけれども、今コロナ禍が本当に足音のごとく迫ってくる中で、学校現場で子どもの命を預かっております。そういうことからすれば、どちらが優先かと思ったときに、学力も実は12月の評価で見ますと、4年生以上全ての学年、全ての教科で県平均を超えておりました。そういう実態もありましたので、ここ1年については取りあえずコロナ禍のほうに主力を置いて、緊急的に対応していくという方向にかじを大きく切っております。そして、これまであった課題等について、その間にいろいろと検討させていただいて、再度お願いしていくというふうな方向性を感じているところであります。

そういった意味で、スクール・サポート・スタッフというふうなところでお願いしてきているところでございまして、フレーム予算でございますので、そのフレーム予算の中ではそういう形で判断をして、どちらを取るかという判断の中ではそういう判断をしたところであります。

以上お答えしたいと思います。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

フレーム予算のしわ寄せが1つということですが、命と比べたら命のほうが大事でしょう。しかし、嬉野市としての将来、未来への投資という面では非常に大事な事業だと思います。確かに、県の平均を嬉野市はある程度上回っているという実績も出ているということですが、県平均を上げるためにはボトム対策というか、平均以下の人たちの学力を上げることが非常に大事な事業だと思います。そのためにこれを活用されて、大いに役立っていたかと思いますので、今後、嬉野市の教育をどう持っていくかということで非常に大事だと思いますので、今回はないけれども、来年度に向けていろんな課題を解決して復活していただきたいと思います。そこら辺を含めて、市長、答弁をよろしく願いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

本年度予算計上をいたしませんでした経緯につきましては先ほど教育長が答弁したとおりでございますけれども、私としても子どもに確かな学力を身につけるということが必要不可欠であるという認識には変わりはありません。

今年の大学入試の方法が変わりまして、共通テストの英語の試験を私拝見いたしましたけれども、非常に高度になっている、ヒアリング重視の傾向にもなっておりますし、また、日常、小学校の幼い頃から英語のある環境にいないと非常に回答が難しい問題ではなかったかなど。なので、平均点以上に難しい、こう言うのはなんですけれども、私がもう一回母校に入学できるかどうか自信がないぐらい、学びの質も非常に高度な水準が要求される時代だということを痛感いたしました。

そういった観点では、やはり生きた英語を小学校の普通の授業の中ではもちろんですが、プラスアルファで日常使いで、使わないと外国語は身につかないというのを私も実感しておりますので、そういった方面での、いろいろオンラインの英会話とか、そういうものもあります。今回導入しているタブレットとか、そういったいろんなものを、民間の活力を活用しながら、確かな学びを授けるということについて、今年度、ひとつ新型コロナウイルス対策を最優先としつつ、しっかり検討した上で、次年度に提案できるように教育委員会とも連携してやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

次に、宮崎良平議員。

○6番（宮崎良平君）

私は同じところで、ある程度分かりましたのでいいんですけど、これは昨年もだったかな、当初についていなかったんじゃないかなと思うんですけど、昨年はありましたか。（発言する者あり）補正で出ましたよね。（発言する者あり）ああ、上乘せか。そういうこともありましたので、期待をしております。

以上です。

○議長（田中政司君）

答弁はよろしいですね。

○6番（宮崎良平君）続

結構です。

○議長（田中政司君）

次に、250ページから257ページの2項、小学校、1目、学校管理費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

学校管理費のタブレット等運用管理費をお伺いいたします。

運用サポートの内容なんですけど、委託料として120万円が計上されております。これは使い方と管理と思いますが、詳細を教えてくださいと思います。

○議長（田中政司君）

①の運用サポートの内容ですね。

○14番（芦塚典子君）続

はい。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

タブレット等運用管理の中の運用サポートの内容でございますけれども、新年度に入りますとタブレット端末を使った授業が始まりますと、先生方のタブレットの操作の仕方や、無線LANが繋がらないといったような問合せが多くなると想定しております。この問合せに対応してもらうように、業者が開設するコールセンターを利用する予定にしております。また、無線LANの設定や設定の変更などをさせていただき業務を委託する予定でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

校内無線LANの操作とLANの設定のし直しということで捉えていいですかね。——はい。

そしたら、次の質問なんですけど、校内LANの精度を考慮した運用と思いますが、子どもたちにChrombookを購入する予定なので、私もすぐ購入させていただきました。子どもたちは4ギガだと思うんですけど、私は8ギガの——子どもたちはAcerだと思います。AcerとHPジャパンのを2つ、14インチと11.6インチを購入させていただいて、すぐに操作いたしました。今までのと全く違いますけど、すぐ慣れます。すごくしやすかったです。精度がすごく先進的で、こういうのを子どもたちが使えると幸せだなと思いました。今までに考えられないような機能でした。

それで、次の質問です。さっきおっしゃったように、校内LANを19万円で7校、これに計上してありますけど、操作とLANの設定なんですけど、小学校700名で、授業が止まったりとか、遅れたりとか、校内LANはこのままの機種で大丈夫なのか。操作の設定とかは計上してありますけど、今までのLANの機器で大丈夫なのかというのがあります。それを教えていただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

令和2年度の校内LANの整備工事におきまして、高速大容量に対応できるケーブルと、ルーターとかスイッチなどの機器を全て取り換えております。インターネット回線も通信速度を少し上げていただいて、実際使ってみないと状況は分からないところはございますけれども、子どもたちが一斉にインターネットにつないでも支障がない設計というか、構築をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

私も機器の操作とか機種とかは購入しましたので分かりますけど、700名が校内で使うとき、LANが本当にこれに対応してスムーズな授業ができるのかというのが、ちょっとまだ実施してみないと分かりませんが、そこら辺を心配しております。

それで、1つの学校で授業の仕方、一斉にたくさんの授業をする、あるいは一斉にネットを使うとか、そういう授業だと滞ると思いますし、教科書については子どもたちがダウンロードして、ネットを使わないで授業をされるとは思いますけど、そこら辺のオンライン授業

の進め方というのはもう計画されているのでしょうか、それをお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

学校教育課長。

○学校教育課長（山浦 修君）

お答えをいたします。

児童1人にタブレットが配付されたときの授業をどのように進めていくかということですが、これは3月中に、まず、教職員向けの研修会を実施したいと思っております。これはタブレットを活用するための研修でございます。また、オンライン授業をしていくためには、ChrombookのGoogle Meetという機能を使う必要がございますが、このGoogle Meetについても教職員向けの研修を実施していきたいと思っております。

やはり第一は、タブレットを活用する、指導する教職員の指導力と、それと、児童・生徒が使いこなせるようになるということが一番の前提になってくるというふうに捉えていますので、それに向けた研修等を実施したいと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

次に、辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

小学校、中学校一緒に聞きます。

○議長（田中政司君）

ちょっと待って。小学校、中学校一緒にということは、学校管理費の使用料及び賃借料の両方一遍にですね。

○10番（辻 浩一君）続

はい。

説明書を読んでいて、ちょっと私あまり詳しくないもので、単純なことをお尋ねします。

パソコン、普通業務の中で入力作業というのは、サーバーを置いてするんだろうと思うんですけど、それが要するに省力化につながる流れというか、子どもたちに向き合う時間が増えるのはいいことなんですが、単純にそこだけお尋ねいたします。

○議長（田中政司君）

学校教育課長。

○学校教育課長（山浦 修君）

学校のほうでは毎日の出欠の統計、確認とか、あるいは学習の記録、それと生活の記録などを取っております。これをデータに記録して行って、学期ごととか、月末、月ごととか、あるいは年度ごとに集約をして、それを出力して印刷すると。それが通知表だったり、指導要録だったり、月末統計だったりします。そこの集約、出力、印字等の労力がすぐできると

いいですか、システム上さっとできるというところでの時間の生み出しが出てくるということでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

次に、諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

1つ目の学校管理費の中での使用料及び賃借料で、プール利用料についてお尋ねをいたします。

一昨年、久間小学校のプールの修理代金が2,000万円以上かかるということで、それをやめて民間のプールを利用しますということで一昨年からされておりまして、今年度においてはコロナ禍ということで、プールの授業は全面中止ということで予算は全部削減されたと思っております。

それで、今回、予算書を見ると、久間小学校だけじゃなくて、五町田小学校、塩田小学校と塩田町内の学校が2校上がってきているわけですがけれども、1年間プールを休んだ関係でプールの維持管理費が多くなったからここに入れたのか、お尋ねをいたします。

○議長（田中政司君）

学校教育課長。

○学校教育課長（山浦 修君）

塩田町内の3校を今回民間のほうにお願いした理由といたしますのは、プールの老朽化というのを考えて、そして、民間のプールの許容量といたしますか、そこら辺も考え、3校の先生方とも協議して、来年度、塩田町内の3校を民間プールのほうでというふうに計画をしております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

嬉野市においては、嬉野町内、また、吉田小・中、大野原まで含めてありますけれども、塩田町内だけじゃなくて、将来的には嬉野町の学校もそういうふうなシステムを利用していると考えておられるのか。嬉野町には今のところ民間のプールがないので、交通の往復の時間がかかるのでなかなか難しいとは思いますが、市営のプールを1つぐらい嬉野町に造って、それを嬉野町内の学校が利用するというような計画もあっていいのかなと私は思いますけれども、将来的な構想をお願いいたします。

○議長（田中政司君）

学校教育課長。

○学校教育課長（山浦 修君）

お答えをいたします。

今現段階では、議員が御発言のとおり、嬉野町内を1つにまとめるプールというのがありません。特に、1つにまとめたときに、プールは天候の状況に非常に左右されまして、雷注意報が出たらプールはできない状況ですので、屋外のプールでの実施というのは複数の学校を集めて行ったときには、やっぱり室内のプールでないと難しいのではないかなと考えているところです。なので、そういう意味では、嬉野町内の学校につきましては、現段階ではそれぞれの学校においてプールの授業を行っていくというところまでの計画でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

将来的には、屋内プールでいつでも泳げるような環境をつくってあげるのが市の役目かなと思っています。轟の滝公園プールかな、あそこも今度ちょっと停止になって泳ぐところがないので、嬉野町に1つぐらい、みゆき公園とか、病院跡地とか、いろいろ市有地が今度できてきますので、今後そこら辺も含めて検討をお願いしたいと要望しておきます。

以上です。

○議長（田中政司君）

次、校務支援システム導入まで。

○3番（諸井義人君）続

次、校務支援システム導入ですけれども、今度、ITを使つての校務支援をするということで、非常に学校の先生方の労務というか、かなり負担軽減になるのかなと期待をしております。それと、正確な情報がそこで得られるかなと思いますけれども、ここに列記されているところにおいては、お金に関する――学校として、子どもたちからいつも集金をもらっていますよね。校納金といいますけれども、校納金システムが今回この中には列記されていないですけれども、校納金をそこら辺で一元管理していったら非常にいいのになと思っておりますけれども、そこら辺について答弁をお願いします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

今回導入いたします校務支援システムの中には、校納金システム、学校徴収金管理のシステムは含んでおりません。学校徴収金につきましては、今は現金で集めている状況ですけれ

ども、校納金システムがあれば集計作業が自動になったり、確かに負担は軽くなると思われます。ただ、これは口座振替を前提とした校納金システムだと思っておりますので、今後、調査研究をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

口座振替が前提だと私も思います。子どもたちに校納金と袋を渡して、持ってきてもらっているわけですが、子どもたちが落としたりという事故等がありますので、子どもたちができるだけ現金を触らなくていいようなシステム、金融機関との協調が要りますけれども、できるだけ口座振替システムで安全な取組をお願いしたいと思います。

それとあと、書いておりますように、この校務支援システム、来年度以降の維持管理費といふかな、運営費といふかな、そこら辺はどのくらいかかるのか、教えてください。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

1年目、令和3年度の初期導入費用が220万円でございます。使用期間は5年間を予定しております。次年度以降ですが、1校当たり、1年間、約50万円となり、11校で1年間550万円と見込んでおります。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

来年度以降の運用費はかなり高いんですね。ならば、これを大いに利用して、先生方の働き方改革に大いに役立つような仕組みに取り組んでいただきたいと要望しておきます。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸井議員、中学校まで今のでもういいですね。

○3番（諸井義人君） 続

ああ、中学校までですね。いいです。

○議長（田中政司君）

次に、262ページから265ページの3項、中学校費、1目、学校管理費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。これは芦塚議員もさっきのと一緒でよかとで

すね。別にあるとですかね。では、芦塚議員。

○14番（芦塚典子君）

先ほどの管理費ですけど、2点だけお伺いいたします。

さっき、この4番目の質問なんですけど、ICT教育が世界的には遅れているというので、オンライン授業を子どもたちということで機器の導入計画を国がされたと思います。

それで、やはりオンライン学習、子どもたちのICTに対する習熟の効果を上げるためだと思いますけど、もう一つは、コロナ禍とか災害時のリモート学習のための導入だと思います。それには児童・生徒側の通信料というのが発生すると思いますけど、リモート学習に対する今後の計画、それと通信料というのが発生していないので、それはどのように考えておられるかをお聞きいたします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

嬉野市としましては、今のところ家庭での持ち帰りの学習は予定をしておりません。ただ、学校と家庭をつないだリモート学習をする場合は、御家庭にインターネット環境があることが必要です。インターネット環境がある御家庭は通信料を負担していただくことになると思いますけれども、インターネット環境がない御家庭もありますので、今後、リモート学習をどのように行うかということと、通信料につきまして、早急に検討していく予定にしております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

あと1点だけお願いします。

電子黒板と遠隔マウスというのに、中学校も小学校も84万円計上されております。16万8,000円の5台というのがありますけど、電子黒板導入にしては安いし、遠隔マウスだけの費用なのか。5台というのはどういうふうにご利用されるのか、これをお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

今、小・中学校には電子黒板を全校に104台整備しております。これが一番早いので平成22年度に整備したものがございまして、10年たち、モニターが映らなくなったりとかしてお

りますので、計画的に更新をしていきたいと思っております。1年に10台ずつ買換えをしていきたいと思って、今回は小学校に5台、中学校に5台分計上しております。

以上です。（「遠隔マウスというのも込みで。電子黒板が今度は安いのですか、遠隔マウスつきで」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

通告も出とらんけんがですね。通告書には入っとらんですもんね。だから、今の質問までということ。よろしいですか。答えられますか。教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

電子黒板、モニターは、今まで高額だったのがタッチパネル式でした。それを今回はタッチパネル式ではないモニターを購入して、ポインターで、遠隔マウスで操作するという方法に変えておりますので、電子黒板と遠隔マウスを含めた金額でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

暫時休憩します。

午後0時 休憩

午後0時 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

次に、273ページの4項、社会教育費、3目、公民館費について質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。宮崎一徳議員。

○5番（宮崎一徳君）

工事請負費、施設改修の吉田公民館の345万6,000円、これについて質問いたします。

まず、工事内容をお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えをいたします。

今回の工事ですけれども、吉田公民館の1階から2階へ上がる階段がございますが、その1階から2階へ階段昇降機を設置したいと思っております。リフト式の階段昇降機です。それと、階段及び2階フロアの手すりの設置、それと、2階トイレの段差解消の工事を計画いたしております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

宮崎一徳議員。

○5番（宮崎一徳君）

昇降機ですね。エレベーターじゃなかったわけですね。分かりました。質問が上がってありましたのでですね。

例えば、ここの公民館は、避難所としてもお使いになっているんですかね。ということは、ほかの施設も避難所として使うところも中にはあるんですね。そういうふうなところの屋外のスロープか、もしくは手すりをつけていく、そういうふうな考えはございませんか。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えをいたします。

今、議員御発言のとおり、文化・スポーツ振興課所管の施設につきましては、必ず災害時の避難場所ということになっております。1つ、特に吉田公民館につきましては、和室のほうに2階にありまして、以前からいろんな御意見をいただいております。今回、エレベーター設置の検討もいたしましたけれども、形状、それから、費用を勘案したときに、なかなか設置ができないという結論に至りましたので、こちらのリフト式ということになりました。

ほかの施設につきましては、2階の部分がある避難所につきましては、塩田公民館、エレベーターがございます。不動ふれあいのところは1階だけのスロープつきの手すりもございますので、まず、吉田公民館のほうから実施していこうということで今回計上をいたしたところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

宮崎一徳議員。

○5番（宮崎一徳君）

それでは、今後もそういうふうな避難所、当然車椅子でお見えになる方もいらっしゃるし、足の不自由な方等もありますので、再度見ていただいて、地域の要望を聞きながら、ぜひ進めていただきたいというふうに思います。答弁は要りません。

○議長（田中政司君）

次に、277ページから279ページの4項、社会教育費、7目、文化財費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

文化財費の委託料、主要な事業の説明書では168ページで、塩田津PR映像制作業務の500

万円ぐらいの内容、まず、どのような内容のPR映像かということをお聞きしたいんですけど、3DCGまでなのか、何分ぐらいの映像か。それと、次の公開活用施設でこれを利活用されるのか、それをお聞きいたします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

塩田津のPR映像につきましては、川湊のまちとして栄えた当時の様子などを3DCG映像で再現し、当時の様子を具体的にイメージできるような映像を作成したいと考えております。時間は10分程度で、日本語、英語、中国語、韓国語の字幕を表示する予定にしております。このPR映像は、3年度に建設をいたします公開活用施設の中で見ていただくように考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

次、工事請負費までお願いします。もう一緒、文化財費ですので。芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

分かりました。

伝統的建造物群保存対策事業の工事請負費4,040万円ですね。これの施設の建設場所と、面積はどれくらいなのかというのをまずお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

公開活用施設の建設の場所でございますけれども、常任委員会の終わった後に地図をお配りしていたものに記載しているんですけども、まず、伝建地区のほぼ中央の辺り、メインの通りの旧長崎街道に面したところで、江戸時代に蓮池藩の上納米を納めたお蔵と、その物資が荷下ろしされた御蔵浜を結ぶ御蔵馬場が交錯する場所になります。お寺の本應寺に入るところ、入り口です。（「御蔵馬場と言わんですよ」と呼ぶ者あり）

面積につきましては、建物は2階建てを予定しております。延べ床面積が116.39平方メートルでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

今の説明でちょっとだけ訂正いたします。御蔵浜から御蔵馬場につながる場所は江口平兵衛さんのところの角で、本應寺じゃありません。（「はい」と呼ぶ者あり）江口平兵衛さんの横の通りが御蔵馬場といって、御蔵浜までつながる通りです。本應寺の通りではありません。場所は分かりました。

それで、公開活用の詳細について伺いますけど、まず、入場料とかがあるのか。それから、嬉野とか塩田津のグッズを販売できるのか。それと、近くにも軽食とかがないので、軽食はできるのか。それと、運営はどういう団体、あるいは運営をする方がいらっしゃるのか、それをお聞きいたします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

公開活用の施設についてでございますが、旧長崎街道に面したところの部分は2階建てで、1階は休憩所とPR映像を視聴できる案内所の機能を持たせる予定にしております。奥のほうトイレということになっております。ここは総合案内所ですので、特に入場料などを取る予定はしていません。また、飲食をする場所といいますよりも、ちょっと休憩をしていただくようなスペースと考えております。

運営につきましては、団体に委託をしたいと思っておりますが、まだちょっと協議をしながら考えていく予定にしております。

以上でございます。（「グッズは」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

グッズの販売。

○教育総務課長（武藤清子君）続

グッズの販売ですけれども、今のところ、ここには人を配置するというものではなく、無人を考えておりますので、グッズの販売は予定していません。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

次に、諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

さっきの質問で分かりました。

1点だけです。旅費の算定根拠で計上されていますけれども、説明の中では文化庁調査官のためのということで聞いてとつとですけれども、文化庁調査官が来られるのに対して旅費を出さんばらんものなのかということと、これを出しとつてまた補填が来るのかどうか、そこだけお願いします。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

この文化庁調査官の指導のための旅費ですが、伝建地区の補助事業を実施するに当たりまして指導を受けるために来ていただくということで、こちらが旅費を負担するものでございますが、この費用につきましては補助事業の対象となっております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

分かりました。ありがとうございます。

○議長（田中政司君）

次に、283ページから285ページの5項、保健体育費、1目、保健体育総務費について質疑の通告がありますので、順次発言を許可いたします。初めに、諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

まず、この保健体育総務費の旅費と工事請負費に関して、国スポ・全障スポ大会の分で、主要な事業の説明書には89ページに記載されておりますが、まず、旅費の詳細と、工事請負費のみゆき球場UD化改修の詳細についてお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えいたします。

旅費の詳細ですけれども、令和3年度開催の三重国体の視察予算として計上いたしております。種目は嬉野市で開催されますレスリング、軟式野球、なぎなた、武術太極拳、スポーツチャンバラの競技でありまして、それと、国体終了後に行われます事業概要説明会のほうにも出席をしたいと思っております。会場設営の状況、運営スタッフとか運営の方法など、そのような状況を見てまいりたいというふうに思っております。実際行きますのは担当職員2名を予定いたしております。

次に、工事請負費につきましてですけれども、みゆき球場UD化改修ということで、今回の改修工事ですけれども、国体の開催施設について、全日本軟式野球連盟の視察がございました。その指摘に基づいた工事となります。

今回の工事につきましては、トイレの洋式化、観客席の車椅子用のスペースとその介助者の椅子の設置の2点となっております。トイレの洋式化につきましては5基、おむつ交換台

設置が1基、車椅子用のスペースの設置が3台というふうな内容になっております。県の補助でありますけれども、補助対象事業費は500万円、そのほかに単独で附帯工事として100万円を計上いたしております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

トイレのUD化の分についての詳細は先ほどあったんですけど、オストメイトの方の対策の配慮とか、そういったのはないんですか。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えいたします。

今回、球場内のトイレなんですけれども、2階の観客席に入ります正面のシャッターがございまして、そこを開けていただく際に、右手、左手のほうにトイレがあります。その1つがオストメイトの流しも既にあるトイレでございます。ただ、そこにおむつ交換台というのがありませんでしたので、そこは1つ追加して、そのトイレを充実させたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

UD化に対しての改修ということですので、できれば設計上の事務的な採用だけじゃなくて、よければ当事者の立場に配慮した、使いやすい対応をですね、せっかく造ったんですけども使えないとか、支障がないような配慮をして造っていただきたいと思います。それは要望しておきます。

次に移ってよろしいでしょうか。

○議長（田中政司君）

はい。

○2番（諸上栄大君）続

サガン鳥栖交流事業についてお尋ねします。

これは「サガン鳥栖うれしのDAY」のことなのかということを確認して、それを行うに当たっての開催時期はどのように考えられているのかということと、委託料の中に内容が盛り上げイベントということで書いてありましたので、その内容に関してお尋ねします。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えいたします。

このサガン鳥栖交流事業というのは、議員おっしゃるとおり、「サガン鳥栖うれしのDAY」というのをしております。年間にいろんな事業をしますけれども、主な事業がうれしのDAYというところになっております。

開催時期につきましてですけれども、これはサガン鳥栖側との調整になりますが、今のところは5月の聖火リレー、オリンピック、そういったものもございますので、一応10月ぐらいの予定をしております。

委託料の盛り上げイベントの内容につきましては、お茶の振る舞いや湯豆腐の振る舞いなど毎年やっております。そのことを初めとして、特に今回はアウエーの来場客へ嬉野市をどのようにアピールするかなどを考えておまして、サガン鳥栖側ともできること、できないことを情報交換しながら事業を進めていきたいというふうに思っております。

特にアウエー来場者の皆さんには、嬉野温泉の日帰りのツアーとか、もちろん宿泊もしていただければありがたいと思いますので、様々なアイデアを出しながら今後詰めていきたいというふうに思っております。

○議長（田中政司君）

諸上栄大議員。

○2番（諸上栄大君）

今年度も開催された事業で、私も非常に楽しみにしております。盛り上げイベントは、本当に新幹線の開業に向けて、近い時期での開催予定であると先ほどの答弁の中で感じましたので、ぜひともこれは全課挙げて嬉野市を大々的にアピールしていただくようお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

以上です。

○議長（田中政司君）

次に、川内聖二議員。

○7番（川内聖二君）

この件に関しましては、みゆき球場UD化改修の説明をお伺いしたかったんですけど、先ほどの説明で分かりましたので取り下げます。

○議長（田中政司君）

次に、宮崎良平議員。

○6番（宮崎良平君）

私はオリンピック聖火リレーの関連事業ということでお聞きをしたいと思います。

オリンピックが開催されるのかされないのかということもまだなかなか分からないまま、取りあえず今のところどういうふうな形で進んでいるのか、お聞きをしたいと思います。

また、いろいろとごたごたあった中で、棄権をするとか、何かネット上ではいろいろ出ていたんですけど、そういう方々がいたのかいなかったのか。

あと、聖火リレーのルートと書いてありますけど、大体どういうところを歩いていくのか、口頭で説明できる分をお願いします。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えをいたします。

聖火リレーにつきましては、令和3年5月9日の正午頃のスタートというふうに計画をしております。ルートは、うれしの茶交流館(チャオシル)をスタートして、ゴールが嬉野市保健センターまでの約2キロの区間ですけれども、途中で本通りのほうに斜めに入るところがありますけれども、そちらのほうに入って、それからバスセンターの前を歩いて嬉野市保健センターに行く、こちらのルートを準備しております。

運営スタッフにつきましては、警備員の委託や、現在募集をしておりますスポーツサポーターと、あと市の職員で、警察との協議の結果、全部で150名程度は必要だろうというところで協議をいたしております。スタッフの方には、コース内の雑踏警備とかスタート会場のイベントなどの補助を予定しております。スタート地点では、できれば吹奏楽、太鼓の演奏なども併せて行いたいというふうに思っております。

聖火リレー中は国道の通行止めを行いますので、4月からは通行止めの予告看板などを設置したいというふうに思っております。

議員おっしゃるとおり、今どのような状況で開催されるというのが大変不透明になっております。例えば、無観客の開催とかであれば、その警備の数にも影響が出てまいりと思いますので、今のところ流動的な御回答であります。

あと、今のところ佐賀県につきましては、棄権をしたという方の報告はあっておりません。ほかの県はあっているみたいですが、今のところその報告はあっていないということでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

宮崎良平議員。

○6番（宮崎良平君）

分かりました。ありがとうございます。

これはちなみに、聖火ランナーは前もって名前が出るということは、最終的に最後までな

いということですか、お伺いします。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えをいたします。

オリンピック委員会の方針といいますか、安全性の確保といいますか、誰がどこを走るといのは公表されないようになっておるようでございます。

以上です。（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

これで歳出243ページから291ページまでの第10款、教育費について質疑を終わります。

次に、歳出292ページから293ページまでの第11款、災害復旧費について質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、歳出294ページの第12款、公債費についての質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

これで113ページから295ページまでの歳出について質疑を終わります。

これで議案第17号 令和3年度嬉野市一般会計予算についての質疑を終わります。

次に、議案第18号 令和3年度嬉野市国民健康保険特別会計予算について質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第19号 令和3年度嬉野市後期高齢者医療特別会計予算について質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第20号 令和3年度嬉野市農業集落排水特別会計予算についての質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第21号 令和3年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計予算についての質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第22号 令和3年度嬉野市浄化槽特別会計予算についての質疑を行います。

質疑がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第23号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地区画整理事業費特別会計予算について質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第24号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地区画整理事業費特別会計予算について質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第25号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計予算について質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

次に、議案第26号 土地の取得について質疑を行います。質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。山口政人議員。

○13番（山口政人君）

この先行取得をしたときの平米単価を教えてください。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

今回計上しております土地の取得につきましては、平成25年度から嬉野市の土地開発公社により先行したものでございます。当時の評価によりまして、圃場整備を行っている農地、田になりますけれども、平米単価1万5,200円、圃場整備外の土地につきましては1万2,600円、それと、宅地等につきましては3万1,500円から4万5,000円のそれぞれの評価によって単価を決定しておりますものでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口政人議員。

○13番（山口政人君）

今回の取得の土地ですね、現在の実勢単価ですか、現在の。土地の取引価格というのはどのくらいでしょうか。

それと、予算措置はどのようになっていますか。

○議長（田中政司君）

暫時休憩します。

午後0時27分 休憩

午後0時27分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

現在の評価については把握しておりません。

今年度の令和2年度予算で買い戻すものがございます。

以上です。（発言する者あり）当初予算で計上させていただいている分になります。（発言する者あり）土木費の嬉野温泉駅周辺整備費の公有財産購入費でございます。（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

これで議案第26号 土地の取得についての質疑を終わります。

次に、議案第27号 財産の無償貸付について質疑を行います。質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。山口政人議員。

○13番（山口政人君）

これは無償貸付けなんですけど、契約書、これは条件がありますかね。契約書の案というものがありますか。

○議長（田中政司君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

お答えいたします。

今回の契約につきましては、事業用定期借地権設定契約ということになります。この契約につきましては、公証役場において公正証書により作成するものとなります。現在、契約に向けての最終確認を行っております。この契約書の案につきましては、嬉野温泉駅周辺整備事業の公募時にお示しをしております。ホームページ等でも公開しております。

内容につきましては、使用目的、建物の用途、期間、賃借料、保険、保証金、それと貸し担保責任、禁止行為などの約30条から成るものがございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口政人議員。

○13番（山口政人君）

この契約の期限が切れたときには、再度の契約というのはいり得るんですかね。

○議長（田中政司君）

暫時休憩します。

午後0時30分 休憩

午後0時31分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（小野原 博君）

新たな契約ということで、契約満了日の3年前から協議を行い、新たに契約をするということになります。

以上です。

○議長（田中政司君）

これで議案第27号 財産の無償貸付についての質疑を終わります。

次に、諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についての質疑を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑を終わります。

ここから追加議案です。次に、議案第28号 嬉野市印鑑条例の一部を改正する条例についての質疑を行います。

なお、議案第28号については、追加議案で通告の時間がありませんでしたので、通告書なしでの質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（田中政司君）

ないようですので、これで議案第28号 嬉野市印鑑条例の一部を改正する条例についての質疑を終わります。

次に、議案第29号 嬉野市教育委員会委員の任命についての質疑を行います。

なお、議案第29号についても、追加議案での通告時間がありませんでしたので、通告書なしでの質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（田中政司君）

ないようですので、これで議案第29号 嬉野市教育委員会委員の任命についての質疑を終わります。

以上で本定例会に提出をされました議案全ての質疑を終わります。

本日はこれで散会いたします。

午後0時33分 散会